

令和 7 年度（令和 6 年度対象）

教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価報告書



令和 7 年 9 月

松野町教育に関する事務の点検・評価委員会

教育に関する事務の点検及び評価について

1 評価委員会の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、松野町教育委員会が事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、そのことについて外部評価委員会が点検・評価を行って、報告書としてまとめる。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

＜評価委員＞ 長谷 信昭
毛利 恭子
小野 榮子
谷口 清二

＜委員会の開催状況＞

第1回 令和7年7月17日（木）「執行状況の点検・評価について協議」

第2回 令和7年8月7日（木）「執行状況の点検・評価について協議」

第3回 令和7年8月21日（木）「評価についてまとめ」

2 評価基準

施策が計画どおり <u>達成している</u>
施策が計画どおり <u>概ね達成している</u>
計画は未達成だが <u>達成に向かって進んでいる</u>
達成できず <u>課題がある</u>

3 評価

教育委員会実施の自己点検・評価については、概ね適正であると考えます。

自己点検評価について、報告書のとおり評価と意見を申し上げます。

「ふるさと松野を守り育てることのできる子どもを育む」という基本理念に基づいた先進的で独創的な活動が展開されています。今後も一層地域との連携を深めながら、多様化する教育活動に対して、様々な世代が参加し学び合うことのできる機会の創出を望みます。

令和7年度(令和6年度対象)教育に関する事務の管理と執行状況の点検・評価

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
1 教育総務	○教育委員会の事務局として、定例会や総合教育会議を通常どおり開催することができた。 ○教育委員会活動の充実を図るため、フリースクール及び文化財の保存・活用に係る視察研修を実施した。 ○寄附金を活用した新たな子育て支援策として、「中学校卒業新生活応援金」制度を新設し、子育て世帯の負担軽減を図った。 ○人材育成基金事業として、中学生3名に対し、オーストラリアへの語学研修事業に係る助成を行った。	評価：達成している ○教育委員の視察研修の実施や応援金制度の創設は、先進的な取組として評価できる。 ○語学研修については、訪問先のさらに具体的な調査と把握が必要である。
2 学校教育の推進	○学校運営協議会を開催し、各学校の運営計画に対する委員の意見の集約や、学校運営状況等についての評価を受けた。 ○学校教育活動全般にわたり、学校支援ボランティアの支援を受けた。ボランティア登録数も49名から58名へと増加し、学校とボランティアの情報共有ツールとしてオープンチャットを積極的に活用した。 ○外国語教育の充実を図るため、外国語指導助手（ALT）を2名配置し、保育園への派遣や低学年からの交流活動を実施した。 ○地域資源を活用した郷土学習として、東小学校では「おくうち棚田学」、西小学校では「森の国山城学」を実施した。 ○子どもたちのチャレンジ精神の向上に資するため、漢字検定、算数検定、英語検定の初回検定料の公費負担を行った。中学生の英語検定に関しては、公費負担を2回まで行った。 ○企業版ふるさと納税や教育費寄附金の活用により、大型モニターをはじめとするICT機器を整備し、授業等で効果的に活用した。 ○平成12年に整備した学校給食共同調理場の老朽化に伴い、大規模改修工事を実施し、環境改善に努めた。	評価：概ね達成している ○学校運営協議会は、発足から4年が経過し、軌道に乗ってきたが、会設立の意義を深めるため、さらに進め方に工夫が必要である。 ○学校支援ボランティア登録者には、年齢層の偏りや活動に対する個々の捉え方に差が存在するようである。そのため、様々な世代が気軽に参加できるような仕組みづくりや周知方法の検討が必要である。 ○地域資源を活かした郷土学習は、今では学校の顔とも言うべき取組となっており、継続すべきである。

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
2 学校教育の推進（つづき）	○不登校対策の一環として、子ども家庭庁の「NPO等と連携した子どもの居場所づくり支援モデル事業」を実施し、子どもの社会的自立のほか、自己肯定感や自己有用感の向上を支援する方法を検証した。 ●登校や学習に不安を抱える児童生徒が増加傾向にあり、不登校又は不登校傾向にある児童生徒の居場所づくり、障がいの状態や特性に応じた個別指導への対応が急務となっている。 ◆不登校又は不登校傾向の児童生徒の居場所として、サポートルームの設置と障がいや特性に応じた個別指導の対応として、通級指導教室の設置を進める。	
3 生涯学習の推進	○松野中学校の第52期卒業生を対象とした成人式を、1月3日に役場庁舎において開催した。 ○庁舎や地区公民館における図書コーナーの充実並びに読み聞かせなどの読書活動の推進に努めた。なお、図書コーナーについては、リクエストBOXを設置することにより、利用者のニーズに沿った図書の充実に努めた。また、引き続き県立図書館の協力図書に取り組み、利用者の便益を図った。 ●公民館・分館事業については、参加者の減少が著しく、運営方法に課題があるため、簡素化や内容の充実など、既存事業の見直しが必要である。	評価：概ね達成している ○分館活動は、以前と同じような運営が困難になってきており、さらに各分館での活動状況にも差が認められるため、抜本的な見直しが急務である。 ○中央公民館と松丸地区公民館は、活動拠点が明確になっていない。コミュニティセンター等を活用し、行事予定等を表示すべきではないか。

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
4 生涯スポーツの推進	○まつの桃源郷マラソン大会については、本年度より通常開催で行い、904名のエントリーがあった。今後も持続可能で効果的な大会運営を目指す。 ○分館対抗スポーツフェスティバルは、実施時期を秋に変更し、4年ぶりに開催した。分館対抗レクバレーのほか、オープン参加でソフトボール、ニュースポーツ（モルック・グランドゴルフ）を行った。 ◆駅伝大会は、中学校から1チームがオープン参加し、7チームで開催することができた。今後も選手構成や区間等を工夫し、継続できるように努める。	評価：概ね達成している ○民間では3B体操の取組が盛んに行われており発展性が高い。町内には卓球やゴルフ等の愛好者も多いので、生涯スポーツの振興にも役立ててみてはどうか。
5 人権・同和教育の推進	○あおぞら子ども会では、引き続き地域の素材を活かした学びを深め、愛媛県人権教育協議会主催の「人権フォーラム」で実践報告を行った。 ○森の国人権の集いでは、あおぞら子ども会の活動報告のほか、「みんなで考える人権」をテーマとして、南予教育事務所社会教育主事と対談等を行った。 ●あおぞら子ども会を核とした人権・同和教育の推進を図るため、引き続き住民への啓発活動及び行政職員の研修を拡充する必要がある。	評価：概ね達成している ○あおぞら子ども会は、宿題の持ち寄りや人権講座を行う等充実した活動が行われている。 ○住民への啓発活動については、子どもたちの活動をもとに、大人の人権意識にも波及していくような具体的な改善方策を検討していく必要がある。 ○人権・同和教育は、これまでの歴史的な背景をしっかりと理解した上で、推進すべきである。

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
6 文化財保存活用 の推進	○文化財専門委員会の委員として、新たに町外在住の専門家1名を加え、指導体制の充実を図った。 ○奥内の棚田及び農山村景観について、ガイドンス施設整備に伴う用地公有化を進めることができた。 ○旧松丸街道の歴史的建造物を保存・活用し、地域活性化を図ることを目的に、「旧松丸街道魅力再発見支援事業」として、建造物の調査や活用を考えるワークショップのほか、まちづくり講演会を実施した。 ○町内の小学生を対象に郷土学習「森の国山城学」と「おくうち棚田学」を実施し、体験学習を通して地域の歴史文化に触れる機会になるとともに、郷土愛の醸成につながった。 ●史跡の維持管理について、現在、業者委託を中心に、年2回の草刈りを実施しているが、十分とは言えず、経費についても、物価高騰等により増加傾向で推移している。今後は業者委託に加え、森の国山城の会や一般参加者を募集し、草刈り作業を実施したい。 ●専門職員の不足から史跡河後森城跡の発掘調査成果の整理・総括が遅延しており、今後の各種計画の作成に向け作業の円滑な推進が必要となっている。 ◆文化財の学術的な調査成果については、より分かりやすい形で価値を伝えていくための継続的な取組が必要である。	評価：概ね達成している ○史跡の維持管理には多大な経費を要しているが、専門家による検証をもとに、残していく価値を伝えていくことが重要である。 ○文化財の価値の伝達には、若い力の活用や、絵本等様々な媒体による周知方法を検討する必要がある。 ○五つ鹿踊りをはじめとする伝統行事の伝承が危ぶまれている状況であるため、映像等による記録化や祭礼の意義を学ぶための教育活動の推進が必要ではないか。

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
7 文化行政の推進	○森の国文化祭の開催にあたり、展示部門では、新たにパネルを購入し、作品展や教育文化展等を行った。 また、芸能部門では、演劇等の特別出演もあり、文化活動に親しむ機会を提供することができた。 ●文化協会では、会員の減少が問題となっているため、会の活動や魅力を積極的に発信するなど、周知活動を強化することにより、団体の活性化に努めたい。 ○第71回不器男忌俳句大会を開催し、一般部門693句、高校生部門101句、中学生部門305句、小学生高学年部門538句、小学生低学年以下部門505句の投句を得た。当日は落語を交えた講演会のほか、各部門の句評、表彰等を実施した。 ○不器男記念館・目黒ふるさと館を中心に、町内外の観光施設と連携し、「四万十街道ひなまつり」を実施した。不器男記念館では、ガラス製雛人形、打掛、保育園児の手作り雛人形等の展示、目黒ふるさと館では、明治、大正、昭和、平成の雛人形の展示を行った。 ○不器男記念館では、専門家に活用企画業務を委託し、館内所蔵資料の調査・研究をはじめ、講座開催や来館者対応などの普及・啓発活動を行った。また、令和6年度から新たに俳句の小径の句碑めぐりイベントも実施した。 ○NHK番組において、目黒山形関係資料がテーマとして取り上げられ、目黒山の山境争いや目黒山形について全国的に周知された。	評価：概ね達成している ○文化祭の開催は、作品展や芸能を通して広く文化に触れ合う機会を提供しているが、さらに多様な参加を得ることで一層の活性化に努めてほしい。 ○NHK番組の放送により、目黒ふるさと館や目黒山形関係資料についての全国的な周知が行われており、評価できる。